

令和4年度(令和3年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

福祉部地域福祉課

福祉部長 竹部 益世

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
15-1	地域福祉推進事業	あり	B	令和3年度より、住民に身近な地域に社会福祉士等の資格を有するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置し、8050問題・ヤングケアラー等、問題を抱えている家庭等に対する早期相談・支援調整等の取組を開始した。このことにより、問題を抱える家庭等へ関係機関と相互に連携しながら早期支援等を行うことで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりの推進に資することができた。	拡充 推進	庁内関係各課及び庁外支援機関との連携・協力体制を深め、社会とのつながりが乏しく適切な支援の届いていない家庭等に対する支援充実を図り、それらの家庭等の社会参加促進に向け、参加の場の創出・拡充に取り組む。
15-2	福祉センター管理運営事業	なし	C	新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉センターの活動の一部（カラオケや囲碁・将棋等）を制限することとなったが、利用者に対する感染予防の周知・啓蒙を進めながら、感染予防と施設の利用促進の両立を目指して地域福祉の増進に取り組んだ。また、教養娯楽室及び技能習得室のブラインド等の取替修繕を行い、利用者が心地よく利用できる環境整備に取り組んだ。	改善 推進	今後も新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、利用者が安心安全に利用できる施設運営に取り組むとともに、施設・設備の老朽化を考慮し、定期点検だけでなく日常点検を着実にを行い、不具合箇所等があれば適時適切に対応する。
15-3	亀崎地域総合福祉センター運営事業	なし	C	新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じた上で、子育て世代と高齢者の交流を目的とした新たな事業を開催するなど、幅広い世代の利用を図り、地域福祉の増進に取り組んだ。また、屋上防水シート及び軒下の修繕を行い、利用者の安心安全に利用できる環境整備に取り組んだ。	改善 推進	今後も新型コロナウイルス感染症対策を適切に行い、地域住民の交流・活動拠点として、幅広い世代に利用していただけるよう積極的に取り組む。本施設は、改築後30年経過しており、施設の老朽化が進んでいるため、設備等の維持管理に努めるとともに、将来的な施設の在り方を検討する必要がある。
15-4	障がい者（児）手当等支給事業	なし	B	手当制度の周知を図るとともに、受給者の施設入所や長期入院を的確に把握し、適正な給付を実施することができた。今後も国手当と市手当の給付事務を連携し、適正な給付に取り組む。	現状 維持	今後も、在宅の障がい者・児の負担軽減を図るため、国・市の制度である手当を支給していく。

整理No	主要事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
15-5	障がい者等自立支援事業	なし	B	相談支援専門員のスキルアップを図り、適正な給付を実施することができた。 年々、給付費が増加するなか、対象者の状況を的確に把握し、障がい等が重度化・深刻化する前に適正な給付を行うことで将来的なコスト増加の抑制に努める。	改善 推進	障がいのある方が、将来にわたり住み慣れた地域で安心して生活できるよう、障がい者の高齢化や「親亡き後」など、将来を見据えた給付に取り組む。
15-6	自立支援医療等給付事業	なし	B	定期的に通院が必要となる疾病や手術等を必要とする方に医療費の給付を行うことができた。 更生医療の受給者は、今後も増加傾向が続くと見込まれるため、引き続き必要な方に医療費の給付が行われるよう事業の周知を図る。	現状 維持	今後も、定期的に通院が必要となる疾病や手術等を必要とする方が安心して日常生活を送ることができるよう、医療費の自己負担額を軽減することが必要である。
15-7	地域生活支援事業	あり	B	令和2年度に開設した半田市地域活動支援センターについては、新型コロナウイルス感染症の影響があるものの、前年度と比較し実利用者数が増加した。 また、一人暮らしに近い宿泊体験を提供可能な施設を対象として含められるよう「半田市障がい者体験的宿泊事業実施要綱」の改正やヘルパーの人材不足に伴う課題に対応するための実態把握調査の実施に着手するなど、事業の見直しにも努めた。	改善 推進	第3期半田市障がい者保健福祉計画に基づき、現行の福祉サービスの対象・給付内容などの継続的な見直しを行い、事業の充実を図る。また、障がいがある方が必要に応じ適切な福祉サービスが受けられるよう情報発信を行うとともに、地域住民に対する障がい理解啓発活動や支援者養成事業を引き続き実施する。
課等長	1次評価（令和3年度の総括評価）					
B	令和3年度から開始したアウトリーチ継続的支援事業については、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）による訪問型相談支援の実施、多機関協働による「ふくしまごと会議」を毎月開催し、構成員の情報共有や支援の方向性を協議して、必要な支援を提供することができた。今後は、令和3年度の実績等を検証し、事業展開・体制について見直しを行い、更なる事業の充実を図っていく。 「ふくし井戸端会議」や「ふくし共育」については、コロナ禍における開催方法を工夫し、継続的に実施することができた。半田市福祉センター及び亀崎地域総合福祉センターでは一部利用制限を行ったり、各種イベントの中止をせざるを得ない状況になったが、施設管理上の感染対策を講じて多くの市民に利用していただいた。 障がい福祉施策については、適正な手当・医療費の給付、障害者総合支援法に基づく福祉サービス等の支給を行い、障がい者の日常生活の充実に努めた。今後も第3期半田市障がい者保健福祉計画に基づき、障がいのある方やその家族が安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、福祉事業等との関係機関との連携を図り、各種事業の着実に努める。					
部等長	2次評価（令和3年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）					
B	新たにアウトリーチ継続的支援事業を開始することにより、複合化・複雑化した支援ニーズを抱えながらも必要な支援が届いていない方に対する支援や伴走による支援を提供することができた。今後は、半田市社会福祉協議会や支援関係機関と連携を深めつつ、令和5年度の重層的支援体制整備事業の開始に向けて、既存制度の「地域づくり事業」の推進と新しい機能の「参加支援事業」の充実を図り、社会的に孤立している方の社会参加の場・機会を創出することが大切である。 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の活動拠点である福祉センター等では一部の利用制限やイベント中止をすることになったが、今後も多くの方に利用していただけるよう感染対策を徹底し、適切な施設運営に努めていく。 今後も半田市地域福祉計画及び半田市障がい者保健福祉計画に基づき、それぞれ設定した目標の達成に向けて各種施策を展開し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるささえあいのまちづくりや、障がい者に対する理解促進・支援充実に取り組んでいく。					